

みやけ保育園運営自己評価表

園長 時枝亮仁

(1) 平成30年度の課題設定

1、平成30年度執行体制は以下のとおりとする。

保育主任1名の他に、未満児全体の調整役としての副主任1名および以上児全体の調整役としての副主任1名の、2副主任体制を整える。また、専門分野において更なる保育の深まりを目指して、それぞれの分野に応じて専門リーダーを設ける。研修や事例検討等を通して確認し話し合いを設け、取組みの結果や保育園の課題について共通認識を深めていく。また職員の協働性を高めるために、「物事の現象を肯定的に受け止め、肯定的に発信する」を職員間のテーマに掲げる。

2、年間保育テーマ

30年度の保育テーマは「命」と「四季を感じる」とする。子どもの人権を保障する上で、命の尊さを改めて見直すきっかけにと考える。また、四季を身近に感じられるよう、園庭の植樹を増やし、昆虫や鳥類の訪れなどを待ち、「共存」していることを体験して学び、自然の移り変わりだけでなく、「生命」の存在を感じ、いたわり、愛でることを目的とする。

(2) 園全体としての自己評価

1、執行体制について

初めての試みで副主任ポストを設置し、それぞれの副主任が中心となって、温故知新の精神でクラス運営の見直しを行なった。改革を過去の取組みの否定と捉え、意見の相違も多少あったが、他園との交換留学を毎月可能な限り行なうことや、共に違う角度からの意見を交換することで、知見を広げる機会になると意識し、互いの保育観を深めることが出来たのではないかと感じる。

保育の質を上げるための専門分野で熱心に取り組む職員が火付け役となり、実践の相互作用により職員も子どもも経験値が上がったと感じる。今後も子どもの求める環境を用意し、充実した生活を送れるよう努力したい。

2、年間保育テーマ

30年度の保育テーマは「命」と「四季を感じる」として、まずは園庭の改造が子どもの遊びの発展につながり好奇心や興味を十分に引き出せたと思われる。また、園庭だけでなく、近隣の自然に恵まれた場所へ昆虫博士(地域活動されている方)と共に散策をし、専門的な知識を交えて観察などが出来たことが、子ども達にとってとても新鮮だったようである。

「命」に関しては、小動物への関心が高く夢中になりすぎるせいか実感が伴わないようである。このような深いテーマは月日が必要だと思われるので、永遠のテーマとして掲げ続けていきたいと考える。